



栃木県の製パンメーカー、パン・キエトが展開する非常食の備蓄と国際貢献を同時に行うことができる「救缶プロジェクト」が注目を集めている。同プロジェクトは、3年の賞味期限を持つパンの缶詰「救缶」を2年間は非常食として備蓄し、賞味期限が1年を切る2年に義援物資として飢饉に苦しむ国々に送り、国際貢献に役立てるという仕組み。具体的には、企業、自治体、学校、家庭などで「救缶」を年間備蓄し、2年後の再購入と同時にヤマト運輸が回収、NGO日本国際飢餓機構を通じて「救缶」を支援先に輸送する。特許製法で防霉剤を使用せずにやわらかいパンを長期保存でき、缶には、義援先の人たちに向けてメッセージを書き込むスペースを設けた。「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「救缶プロジェクト」で創業し、平成7年に阪神
—— 淡路大震災発症時に被災者
秋元 当社は、昭和22年
に栃木県で秋元パン店とし
話を開発した。「救缶」
の元になった
のは、スマート
ラ油地震の時
に、津波の被
害にあったス
が迫っていた商品新し
い商品に切り替えるから、古
の要請があった。パンの缶
詰は、分別ゴミになるため
コストがかかるから、一
方、スマートラからは、中
でもいかに送ってほしい、

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「救缶プロジェクト」で創業し、平成7年に阪神淡路大震災発症時に被災者の声をきくために、同プロジェクトを開発した。「救缶」の元になったのは、スマートラ油地震の時に、津波の被害にあったスライスカの日……」

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「パン缶詰」で非常食 備蓄と国際貢献両立



南三陸町で支援活動を行う秋元信彦課長

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

パン・「救缶プロジェクト」に注目

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)

「救缶プロジェクト」は、東日本大震災でも機能し被災者の命をつなげた。同社営業部の秋元信彦課長は同プロジェクト発足経緯、東日本大震災での支援活動について話を聞いた(音柳英明)